

図2 出火原因

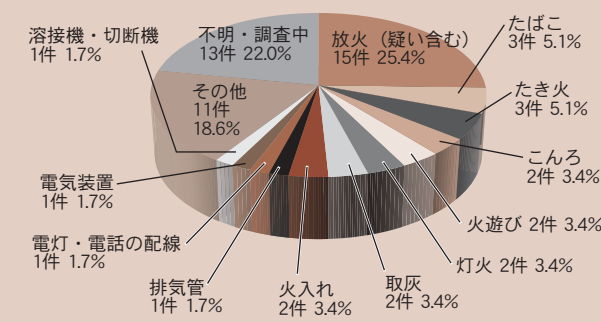


図1 火災発生件数

	建物	山林	車両	その他	合計
平成19年	30	6	5	18	59
平成18年	34	1	7	21	63

資料「2008年 消防年報 とめ」

特集

火災からわが家を守る

調理や暖房など、火はわたしたちの生活の中でとても便利な道具であり、なくてはならない存在です。その反面、一瞬で財産や生命を奪ってしまう大きな危険性も併せ持っています。今月号では、悲惨な火災から身を守るため、わたしたちができる取り組みなどについてお知らせします。



市内の出火原因 1位は「放火」

平成19年中（1月1日から12月31日まで）に、市内で発生した火災は59件で、前年同期に比べて4件減少しました。火災種別ごとにもみると、建物火災は4件減少の30件、車両火災は2件減少の5件、その他火災が3件減少の18件となっており、林野火災が5件増加の6件となっており、ほかはすべて減少しています【図1】。また、出火原因別では「放火（疑いを含む）」が15件（25・4割）で最も多く、そのほか原因が分かっているものでは、「たばこ」3件（5・1割）、「たき火」3件（5・1割）などが主な原因を占めています【図2】。59件の火災のうち、約25割が放火（疑いを含む）が原因とみられ、「家の周りに燃えやすいものを置かない」「夜間は玄関や裏口に電気をつけて明るくする」などの放火されない

防火は皆さん一人一人の心掛けしだい 「住宅用火災警報器」の早期設置を

火災から命や財産を守るために、わたしたちが出来ることや防火対策のポイントなどについて、市消防署の遠藤署長に聞きました。

Q 登米市の火災の特徴は、どのようなになっていますか？

登米市の火災原因のトップは放火（疑いを含む）で、全体の約25割を占めています。放火は全国的にみても火災の最大の発生原因で、以前は都市部での発生が多かったのですが、最近は地方での発生も増えていきます。放火は、防火対策を取るの、なかなか難しいのですが「家の周りに燃えやすいものを置かない」「指定された搬出日にごみを出す」など、放火されない環境をつくるのが一番の防火対策となります。

Q 市消防署としては、防火対策に

どのように取り組まれていますか？

消防署では、消防団や婦人防火クラブ、自主防災組織などの団体と協力し、防火研修会や訪問指導などの事業を行っています。市民皆さんには、各地区で行われる防火行事や講習会に積極的に参加してほしいですね。

Q 市内の住宅用火災警報器の設置状況はどうですか？

登米市の住宅用火災警報器（以後警報器）の普及率は、調査開始の平成20年3月時点では31割と低い状況でした。その後、6月から既存の住宅への取り付けが義務化したことから、今後も普及に努め、今年度中には60割を超える普及率を目指したいと思っています。

住宅火災で亡くなる人は全国的に

環境づくりが重要といえます。

火災を未然に防ぐには、一人一人が防火の重要性を認識し、火災を起こさないように日常生活の中で火災予防を実践していくことが大切です。

火災予防7つのポイント

- 【3つの習慣】
- ①寝たばこは絶対しない
 - ②ストーブは、燃えやすいものから離して使用する
 - ③ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す
- 【4つの対策】
- ①逃げ遅れを防止するため、住宅用火災警報器を設置する
 - ②寝具やカーテンなどは、防炎品を使用する
 - ③初期消火のために、住宅用火災警報器などを常備する
 - ④高齢者や体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる



も年々増加傾向で、その約60割が65歳以上の高齢者となっています。火災が起こるとまず煙が出るので、警報器によって早い段階で煙を感じできれば、火災からの逃げ遅れを防げるようになります。実際、設置した人から「こんろの火を消し忘れ、危うく火災になるところだったが、警報器の音で気付いて消火したので、火災を免れることができた」という声もあります。

また、アメリカでは約90割以上の住宅に警報器が設置され、それによって火災による死亡者が40割も減少したというデータもあります。

なお、警報器を設置する際は、1カ所で火災を感知すると連動して一斉に警報器が鳴る「連動型」の購入をお勧めしています。

警報器は、火災が無ければ使うことはありませんが、いざというときには皆さんの身を守ってくれるものなので、ぜひ早期に設置をしてほしいと思います。

Q これからの季節、市民皆さんに注意してほしいことは？

これからは暖房用としてストーブやヒーターを使用することが多くなりますが、必ず燃料や耐震装置などを使用前に点検して、安全に使用してほしいと思います。また、洗濯物の乾燥や湯沸しなど、本来の用途外に使用しないことも大切です。家庭での小さな心掛けの積み重ねで、確実に火災は減っていくと思います。



登米市消防署 遠藤 孝 署長